

目標：収量 200kg/10a 以上、2 等級以上

排水対策の徹底で、大豆の収量向上を図りましょう

－ 重点技術対策 －

- 排水溝（明渠・暗渠）や補助暗渠の施工による、地表水の速やかな排水
- 品種・播種時期・播種密度に応じた播種量の調整で、目標苗立ち数を確保
- 播種直後の除草剤散布による雑草の発生と生育を抑制

1 排水対策

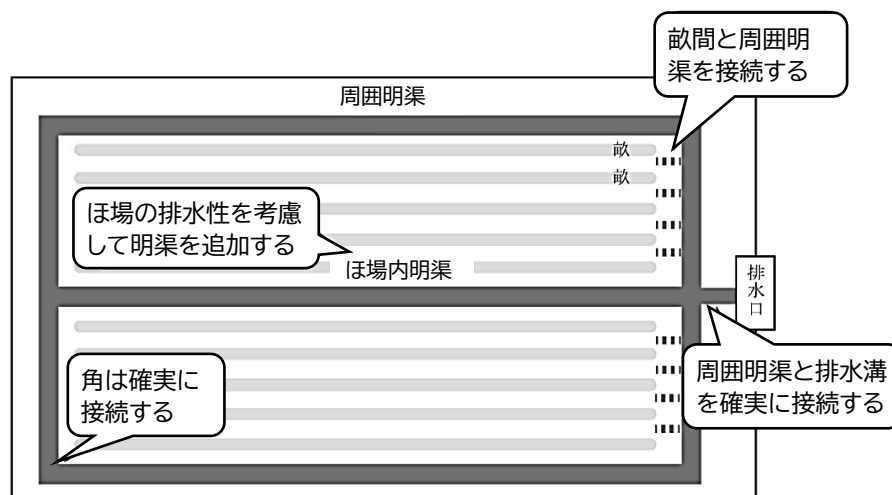
大豆は湿害に弱い作物です。生育初期の湿害は、その後の生育や収量に悪影響を及ぼします。また、排水不良田や地下水位が高いほ場では、大豆の根が浅くなり、夏場の乾燥に弱くなるため、排水対策の徹底が重要です。

(1) ほ場の選定

- ・排水性が良く、地力の高いほ場を選定しましょう。
- ・団地化することで周囲からの水の侵入を防止しましょう。
- ・ブロックローテーションにより連作障害を回避しましょう。

(2) 排水対策

- ・周囲明渠は深さ 30～40cm とし、畝間と連結するように設置しましょう。
- ・ほ場が大きい場合、ほ場内にも 5～10m 間隔で明渠を作ることで、地表水の速やかな排除が可能です。
- ・ほ場の均平化を図るとともに、明渠から排水口まで水の流れをすべて繋げましょう。



- ・本暗渠に加えて補助暗渠（弾丸暗渠、心土破碎）を施工し、排水効果を高めましょう。
- ・本暗渠を施工していないほ場では弾丸暗渠を周囲明渠などに接続して排水し、本暗渠を施工してあるほ場では本暗渠と交差させて弾丸暗渠を施工しましょう。
- ・サブソイラによる心土破碎は通気性や透水性を高め、根域の拡大が期待できます。

2 施肥

- ・ 土壌の酸度矯正と栄養補給を兼ねて、石灰質資材を施用しましょう。
(消石灰では 100kg/10a 程度、マグクリン 60~80kg/10a 程度に相当)
- ・ 基肥は、10a 当たり窒素 1.5~2.5kg、リン酸 6~8 kg、加里 6~8 kg が基準です。
(ニュー大豆 800 又は有機入り大豆配合 2 号で、10a 当たり 20~30 kg に相当)
- ・ 大豆連作ほ場等において、収量の低下や小粒化が見られるほ場では、緩効性肥料の施用
(ワンタッチ大豆で 10a 当たり 40kg 程度) を検討しましょう。

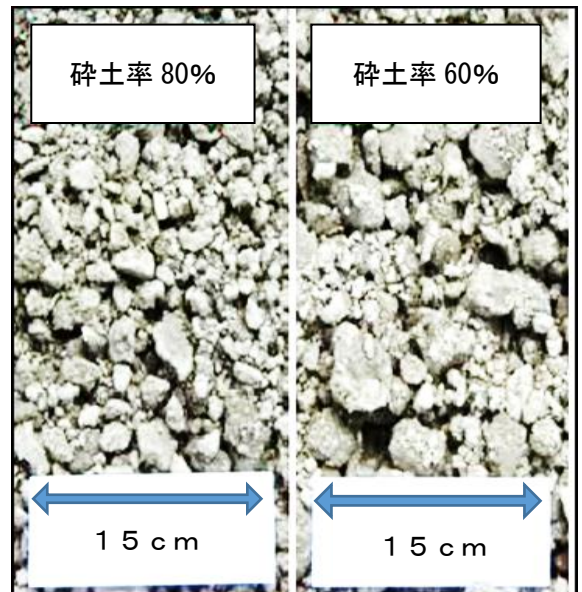
3 播種

(1) ほ場の準備

- ・ 碎土率 70% (直径 2cm 以下の土塊が 7 割) 以上を確保しましょう。碎土率が低いと発芽不良や生育ムラにつながります。

【碎土率を上げるポイント】

- ① 排水対策を早め実施しほ場を乾かす
- ② ほ場が乾いているときに耕うんする
- ③ 耕うん回数を増やす
- ④ 作業速度を落とし耕うんピッチを小さくする
(特に 1 回目)
- ⑤ アップカットロータリーを使用する



(2) 播種

- ・ アゾキシストロビン剤 (QoI 剤) に耐性を持つ紫斑病菌が県内確認されています。 紫斑病のほか病虫害の発生を防止するため、種子消毒を徹底しましょう。
- ・ 過湿、過乾燥による出芽不良防止の為、播種作業は耕うん・碎土・整地と同日に行いましょう。
- ・ 「里のほほえみ」は、裂皮を避けるために早播きを避けましょう。
- ・ 播種深は 3~4 cm 程度とし、ほ場が乾燥気味の場合はやや深めにしましょう。

表 品種ごとの播種目安

品種名	播種時期	目標 苗立ち 数 (本/m ²)	播種密度の目安		
			畦幅 (cm)	株間 (cm)	
				1粒播き	2粒播き
エンレイ (標準播)	5/20~6/10	9~10	75	10~11	21~23
エンレイ (晩播)	6/11~6/20	13~18		6~8	12~16
里のほほえみ	6/1~6/15	9~16		6~11	12~23

※播種密度の目安における株間は、苗立ち率を 80% として算出。

4 雑草防除

- ・雑草が多い場合は、耕起前に大豆に使用登録のある茎葉処理除草剤を散布しましょう。
- ・播種後出芽前に土壌処理剤を散布し、大豆生育初期の雑草密度を下げましょう。
- ・雑草の発生が早い場合は、除草を目的とした1回目の中耕・培土を、通常より早めに実施しましょう。

【土壌処理除草剤の効果を高めるポイント】

- ① 碎土率を高め、覆土の厚さは3 cm程度を確保する。
→土塊が大きいと散布した除草剤の付着する表面積が減り、効果が低下する。
- ② 覆土後ただちに散布し、乾燥または過湿の状態での使用を避ける。
→覆土後でも、散布直後に降雨が心配される場合は除草剤散布時期を遅らせる。
- ③ 砂土では薬剤が土壤に吸着されずに薬害を起こすので使用を避ける。

〔参考〕 帰化アサガオ類対策について

近年問題となっている帰化アサガオ類は、出芽後2～4週間でつるになる特性があります。帰化アサガオ類が発生しているほ場では、効果の高い除草剤と中耕・培土を組み合わせた早めの体系防除を実施しましょう。

■帰化アサガオ類対策のための体系防除（例）

- ① 土壌処理除草剤（播種後出芽前）
→ ② 茎葉処理除草剤（大豆2葉期から開花期）
→ （中耕・培土）
→ ③ 茎葉処理除草剤（株間処理：大豆5葉期以降雑草生育期）
→ （中耕・培土）
→ （開花）



マルバルコウ



マメアサガオ
写真 帰化アサガオ類



アメリカアサガオ